

2019年11月1日

過去泌尿器科に受診され、連絡先が変更となり当院からのご連絡が

取れない患者さんまたは亡くなられた患者さんのご家族の方へ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの腫瘍検体や診療情報を収集します。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」

(平成26年12月22日発行、平成29年2月28日一部改正)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

【研究課題名】 ステージⅣ尿路上皮癌患者におけるPD-L1発現率に関する実態調査

【研究依頼者】 アストラゼネカ株式会社

【研究機関名】 京都大学医学部附属病院

【研究責任者名・所属】 小林 恭・泌尿器科

【共同研究機関名・研究責任者名】

大学病院医療情報ネットワークセンター臨床試験登録システム(UMIN-CTR)で学外の参加研究機関を確認することができます。

【研究の背景】

2019年08月19日

がん細胞は、細胞表面にPD-L1という物質を作り、体の免疫細胞^①の攻撃から逃れ、増殖します。膀胱癌において、PD-L1発現率^②は、ステージの進行や全死亡率との関連が認められています。PD-L1高発現はより悪性度が高い状態であることが報告されており、PD-L1発現率は今後の病状についての医学的な見通しである予後の指標となりえます。しかし、国内においてステージⅣ尿路上皮癌の患者さんに対して、一次治療^③前のPD-L1発現率を測定した結果は報告されていません。

また、がん細胞がどの程度変異しているか測定する腫瘍遺伝子変異量（TMB）は、免疫チェックポイント阻害^④による効果を予測する指標として注目されています。しかし、国内において、尿路上皮癌の患者さんにおけるTMB高レベル^⑤の割合や、TMBと予後にどのような関連があるのか確認した結果は報告されていません。

さらに、国内全国での施設において、ステージⅣ尿路上皮癌における一次治療パターンおよび予後について確認した結果は報告されていません。

【研究の目的】

この研究では、ステージⅣ尿路上皮癌の患者さんのPD-L1発現およびTMBレベルを評価し、さらに、予後についても評価することで、PD-L1およびTMBの予後因子の指標としての有用性について評価することを目的としています。

^① 免疫細胞：体の中に侵入したウイルスや細菌、がん細胞を見つけて攻撃し、体を守る細胞

^② PD-L1発現率：がん細胞にPD-L1が発現している割合

^③ 一次治療：初めて治療する化学療法

^④ 免疫チェックポイント阻害：がん細胞が免疫細胞の攻撃から逃れることを阻害すること

^⑤ TMB 高レベル：腫瘍の変異量が多い状態

2019年08月19日

この臨床研究を実施するにあたり、患者さんの人権や安全への配慮について、また、医学の発展に役立つかどうかについて、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得て実施しています。

【研究の方法】

- 研究の対象となる患者さん

2017年1月1日から2018年12月31日の間にステージⅣの尿路上皮癌と診断され、ステージⅣに対する治療として少なくとも1サイクルの化学療法を受けており、2017年1月1日以降に採取された尿路上皮癌原発巣の腫瘍検体が保存されている20歳以上の方。

- 利用する試料の種類

腫瘍検体は、TURBT⁶や膀胱などを摘除された際に採取されます。この研究では、上記の腫瘍検体の一部を研究用に使わせていただきます。

なお、ステージⅠ～Ⅲにおいて、ネオアジュバント治療⁷を実施され、ネオアジュバント治療前に尿路上皮癌原発巣の腫瘍検体が保存されている方の場合、ネオアジュバント治療前の腫瘍検体の一部についても、研究用に使わせていただきます。

- 利用する情報の種類

診療記録から以下の研究データを収集します。

⁶ TURBT：尿道から膀胱鏡をさし込み、膀胱の腫瘍を取り除く方法

⁷ ネオアジュバント治療：手術の前に抗がん剤などを使用し、腫瘍を小さくしてから切除手術を行う治療法

2019年08月19日

- 治療に関する情報：ステージⅣに対する治療内容、ステージⅠ～Ⅲに実施した手術、手術前後の治療に関する情報、放射線治療の情報
- 検査に関する情報：採取した検体に関する病理診断情報、ステージⅣに対する治療前後の臨床検査、ステージⅣ一次治療～三次治療前の腎機能
- 背景情報：性別、生年、診断日、身長、体重、喫煙歴、合併症、膀胱または腎尿管の摘出状況、尿路上皮癌の進行状況、転移部位、手術から再発までの期間

【試料/情報の第三者への提供について】

この研究では、腫瘍検体や診療記録から抽出した研究データを研究依頼者（アストラゼネカ株式会社）に提供します。

検体は、個人情報と連結を不可能にした状態で検査会社に送られます。検査会社での測定が終わった後は、検査会社にて適切に廃棄されます。

診療記録から収集した研究データは、研究終了後、医療機関は15年間（医療機関の規定によっては更に長期間保管されます。本研究の本学における個人情報管理責任者は後藤崇之です）、アストラゼネカ株式会社は最長15年間保管し、保管期間が終了した後に個人を識別できる情報を取り除いた上で廃棄いたします。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は国内外の学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

2019年08月19日

【研究資金・利益相反について】

この研究は、アストラゼネカ株式会社から提供された研究費により実施します。利益相反については、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査・管理しています。

【研究実施期間】

実施許可日～2020年10月31日予定（登録締切日：2020年3月31日）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。もしこれらの情報の開示を希望される場合は、担当医師へご連絡ください。

*上記の「研究の対象となる患者さん」で、現在も京大病院に通院中の患者さん、あるいはこちらから連絡が可能な患者さんについては、受診時等に研究について改めて説明させていただいた上で、試料・情報の研究目的の使用に関して同意をいただく可能性があります。また、過去泌尿器科に受診され、連絡先が変更となったり、亡くなられたりといった理由で、当院からのご連絡が取れない患者さんやご家族の方の中で、上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。なお、既に解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がございますので、ご了承ください。

(研究内容に関する問い合わせ)

2019年08月19日

研究事務局 京都大学大学院医学研究科 泌尿器科学

小林 恭

TEL : 075 - 751 - 3337 FAX : 075 - 751 - 3740

(その他に関する相談窓口)

京都大学医学部附属病院 相談支援センター

電話番号 : 075-751-4748